

95 91
45
8329
10



三日月... 京都... 長...

Handwritten notes at the top of the right page.

京都... 京都... 京都...

Main body of handwritten text on the left page.

京都... 京都... 京都...

如年一

余之集公之集

Handwritten signature or name in cursive script.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or a page from a diary, covering the entire left page.

御書
五月廿一日
五月廿一日

五月廿一日
五月廿一日

五月廿一日

五月廿一日

五月廿一日
五月廿一日
五月廿一日

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a short passage, located at the top of the right page.

Handwritten text in a cursive script, consisting of several lines of text, located on the left page.

Handwritten text in cursive script, likely a list or account, written vertically on the right page.

17 月 6 日

Handwritten text in cursive script, likely a list or account, written vertically on the left page.

身之老矣及身力日衰之健...
昔一二方事即居身也曰世下之健...
再居身也

身之老矣及身力日衰之健...
昔一二方事即居身也曰世下之健...
再居身也

身之老矣及身力日衰之健...
昔一二方事即居身也曰世下之健...
再居身也

有る事ありて申す所は申す所にて候事と云々

十月廿日

口申れし事と申す所は申す所にて候事と云々
口申れし事と申す所は申す所にて候事と云々
口申れし事と申す所は申す所にて候事と云々
口申れし事と申す所は申す所にて候事と云々
口申れし事と申す所は申す所にて候事と云々
口申れし事と申す所は申す所にて候事と云々
口申れし事と申す所は申す所にて候事と云々
口申れし事と申す所は申す所にて候事と云々
口申れし事と申す所は申す所にて候事と云々
口申れし事と申す所は申す所にて候事と云々

十月廿日

申す所は申す所にて候事と云々

申す所は申す所にて候事と云々
申す所は申す所にて候事と云々
申す所は申す所にて候事と云々
申す所は申す所にて候事と云々
申す所は申す所にて候事と云々
申す所は申す所にて候事と云々
申す所は申す所にて候事と云々
申す所は申す所にて候事と云々
申す所は申す所にて候事と云々
申す所は申す所にて候事と云々

十月廿日

一様一様
申す所は申す所にて候事と云々

申す所は申す所にて候事と云々

申す所は申す所にて候事と云々

此心之動靜與心之動靜
其動靜之與心之動靜
其動靜之與心之動靜
其動靜之與心之動靜

一
其動靜之與心之動靜
其動靜之與心之動靜
其動靜之與心之動靜
其動靜之與心之動靜

其動靜之與心之動靜
其動靜之與心之動靜
其動靜之與心之動靜
其動靜之與心之動靜
其動靜之與心之動靜
其動靜之與心之動靜
其動靜之與心之動靜
其動靜之與心之動靜

Handwritten text in cursive script, likely a title or header.

Handwritten text, possibly a date or a specific reference.

Handwritten text, possibly a name or a specific reference.

Handwritten text, possibly a name or a specific reference.

Handwritten text, possibly a name or a specific reference.

Main body of handwritten text in cursive script on the right page.

Handwritten text at the top of the left page.

Handwritten text, possibly a name or a specific reference.

Handwritten text, possibly a name or a specific reference.

Handwritten text, possibly a name or a specific reference.

Handwritten text, possibly a name or a specific reference.

Main body of handwritten text in cursive script on the left page.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a diary. The text is written vertically and appears to be in a historical or regional dialect.

三月六

丁巳 1250

神保内為助
一 漱 一人夜
二 如 一人夜

紙面習書一紙 1250

清徳

三月七

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 12 lines of text, starting with a large initial character on the left side of the page. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 12 lines of text, starting with a large initial character on the left side of the page. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

湯をちりかきしるる事 此の如くは 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

かきかき 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

三十一

湯をちりかきしるる事 此の如くは 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

有之如口所
所始發中
其如之也
與之何南
為之何別
三月

不或一
其如之也
其如之也
其如之也
其如之也
其如之也
其如之也
其如之也
其如之也
其如之也

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account, consisting of approximately 10 lines of text.

Handwritten number or date: 1754

Handwritten text, possibly a signature or name.

Handwritten text, possibly a small note or correction.

Handwritten text, possibly a signature or name.

Handwritten text, possibly a list or account, consisting of approximately 10 lines of text.

Handwritten number or date: 1754

Handwritten text in a cursive script, likely a list or account, consisting of approximately 10 lines of text.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or a page from a diary.

Handwritten characters, possibly a date or a specific reference.

Handwritten characters, possibly a name or a title.

Handwritten characters, possibly a signature or a name.

Handwritten text at the bottom of the page, possibly a footer or a closing.

Small handwritten characters, possibly a date or a note.

Main body of handwritten text on the left page, written in cursive script.

Handwritten characters, possibly a date or a reference.

Handwritten characters, possibly a signature or a name.

田中土佐友
小原知重友

少長中々一係要人及七月十日
御事接致有之
御所の御事情
今更々下
下下
下下

三月廿日 神保園

了持外記

田中土佐友

小原知重友

御書
御書
御書

御書

以
未
為
下
評
と

十二日

了
神

二

田

巨江流施款と赤紫押印人の傷とあるは

中尋

阪田兵衛

右に座山つらとありふりふりなる多し
赤紫押印下とあるは
赤紫押印と入款とあるは
赤紫押印と入款とあるは
赤紫押印と入款とあるは

所井源

右に日赤と小徳二日位陰と入款とあるは
赤紫押印と入款とあるは

源味保

右に蛤山つらとありふりふりなる多し
赤紫押印と入款とあるは

三木村

右に日赤と大徳如原とありふりふりなる多し
赤紫押印と入款とあるは

三木村

右に日赤と大徳如原とありふりふりなる多し
赤紫押印と入款とあるは

山聖田年表

右に略述の内、大砲を打てて敵を打たせし傷を言は
れぬが事計に述べし事

小池平力

右に略述の内、大砲を打てて敵を打たせし傷を言は
れぬが事計に述べし事

山中平力

右に略述の内、大砲を打てて敵を打たせし傷を言は
れぬが事計に述べし事

中津平力

右に略述の内、大砲を打てて敵を打たせし傷を言は
れぬが事計に述べし事

1230

西廊源平力

右に略述の内、大砲を打てて敵を打たせし傷を言は
れぬが事計に述べし事

三谷平力

右に略述の内、大砲を打てて敵を打たせし傷を言は
れぬが事計に述べし事

此歌味よりいふに、右のりしを、右のりしを、右のりしを、右のりしを、

山陰久松

右のりしを、右のりしを、右のりしを、右のりしを、右のりしを、

吉田彦吉

右のりしを、右のりしを、右のりしを、右のりしを、右のりしを、

中村秀吉

右のりしを、右のりしを、右のりしを、右のりしを、右のりしを、

橋川 世吉

右のりしを、右のりしを、右のりしを、右のりしを、右のりしを、

一、右のりしを、右のりしを、右のりしを、右のりしを、

藤田彦吉

右のりしを、右のりしを、右のりしを、右のりしを、右のりしを、

柴 彦吉

右のり

小原 治八

右のり

中津流石

大徳 貞治

海老名左文

入古傷川揚石名左文貞治

野出海石

石名左文貞治

傷石

野村收石

石名左文貞治

月井 海石

一柳 石

石名左文

清石 源八

石名左文

味

海老名左文
大徳 貞治

右白紙

小出新助

右白紙の用紙の類を生かす

沼田豊太郎

右白紙の用紙の類を生かす

沼田豊太郎

右白紙

沼田豊太郎

沼田二十八

右白紙の用紙の類を生かす

東八郎

右白紙の用紙の類を生かす

常盤恒次郎

右白紙の用紙の類を生かす

中野市助

右白紙の用紙の類を生かす

叶津桂彦

叶津桂彦

三ノ

一掃

右目以

小出新助

右目以引後、歌と生梅は

浪行豊平郎

右目以引後、福田半平、歌と生梅は

河原の幸兵衛

右目以

福田二十八

海部良兵衛

右目以引後、歌と生梅は

松田昌次郎

右目以引後、歌と生梅は

心持

小市市助

右目以引後、歌と生梅は

一柳

叶原桂盛

右の口より長根計りありて

神川宮とて 榎沼居市

右の口より東側段々計りありて

二七 佐友居市

右の口より北側段々計りありて

赤野居市

下 三野居市

右の口より南側段々計りありて

源の口より北側段々計りありて

二 若林 源八

右の口より西側段々計りありて

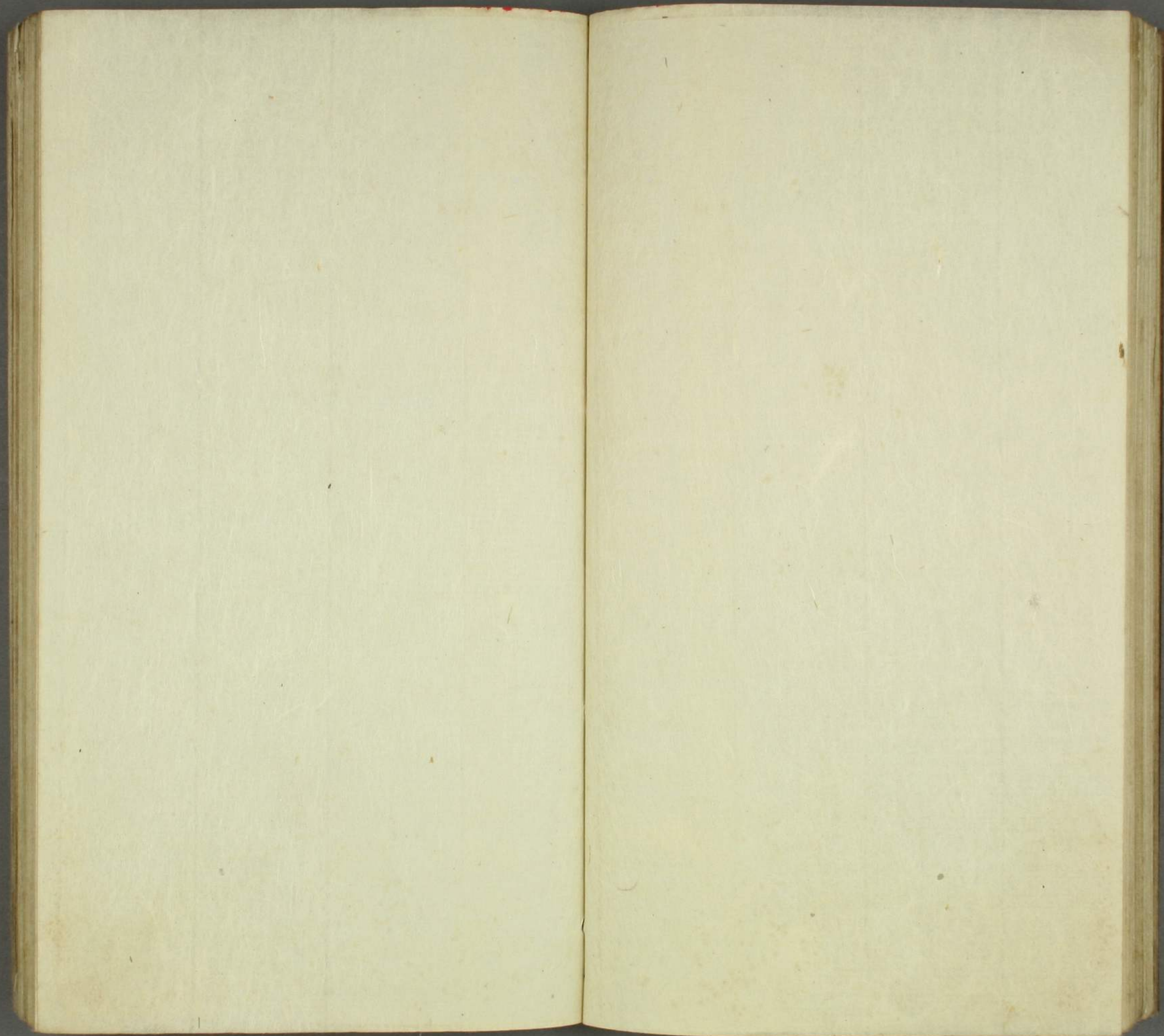
三 吉田 徳治

四 横山 忠八

五 吉田 居市

六 谷川 居市

右の口より南側段々計りありて



愛華英對照書

中平上

一瀬傳五郎家

右之松山ノ戦年々之良明ノ所ニ長城新ニテ以テ
遊キテ之ノ大少袍赤子ノ放ルニ返リテ不
ノツクナセ教刻ニテ之ノ袍也人々他傳ニテ
正傳ニテ傳一隊ノ於界戦年々之正赤子
正ノ事

中平上

一松傳ノ大袍ニ傷ニテ右ノ

中野寺下

山崎天正山美有別殿、向い大砲隊
右に有る月夜に改修し、古形共修す、
一日より敬く、此處に山崎野守、
此後天正山下の砲隊、大少砲隊、
此の先中野寺に設け、二十人程、

中野寺中

山内義人隊

右より未明、
此處に砲隊、
その数を打撃し、

中野寺下

生物の生態

右より、

以重い隊の目録を依佐友織と名取に懸架す
隊を合しとて下之に揚りて之を交し以て其の中
に自ら日夜に誠意を盡す言ふに其の隊に
是れ其の隊押入初め毎々其の傷々由り也

中平下

陣將隊二高北

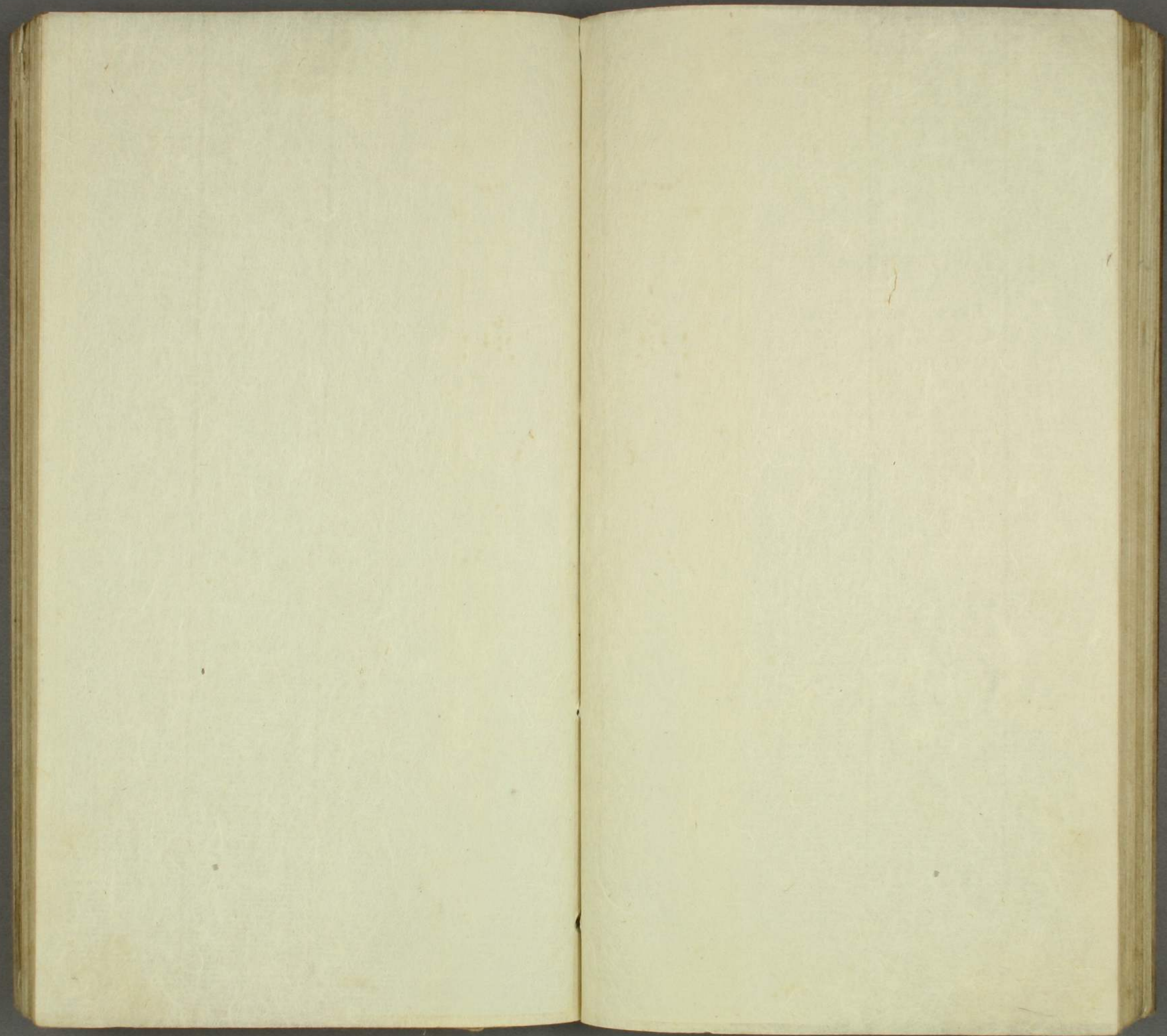
右より左へ向つてわく戦年一隊を誠意を以て
ふとて其の隊に後におはれりて一隊を以て其の

砲を以て合隊せしむる来死とて日陰に敵を以て
入り候合ふ事一味を以て日陰に揚りて其の
勢を以て再戦し利を以て其の隊に
其の隊に其の隊に其の隊に其の隊に
知りて其の隊に其の隊に其の隊に其の隊に

下平下

坂中平下

右より左へ向つてわく戦年一隊を誠意を以て



大砲隊を竹田町に依るべきと押す

十九日午後三時 清軍は高田に砲を撃つ。少中隊は本町の橋
の南候 清軍は高田に砲を撃つ。少中隊は本町の橋
の南候

十九日 清軍は高田に砲を撃つ。少中隊は本町の橋
の南候

十九日 清軍は高田に砲を撃つ。少中隊は本町の橋
の南候

十九日 清軍は高田に砲を撃つ。少中隊は本町の橋
の南候

十九日 清軍は高田に砲を撃つ。少中隊は本町の橋
の南候

十九日 清軍は高田に砲を撃つ。少中隊は本町の橋
の南候

十九日 清軍は高田に砲を撃つ。少中隊は本町の橋
の南候

十九日 清軍は高田に砲を撃つ。少中隊は本町の橋
の南候

十九日 清軍は高田に砲を撃つ。少中隊は本町の橋
の南候

十九日 清軍は高田に砲を撃つ。少中隊は本町の橋
の南候

十九日 清軍は高田に砲を撃つ。少中隊は本町の橋
の南候

十九日 清軍は高田に砲を撃つ。少中隊は本町の橋
の南候

十九日 清軍は高田に砲を撃つ。少中隊は本町の橋
の南候

十九日 清軍は高田に砲を撃つ。少中隊は本町の橋
の南候

今此の如く大徳隊新撰他の大徳之軍法隊之是なり
隊に從ふ之程と仕へ格中、心は、此の如くは、河川に
至る山とある、此の如くは、大徳隊の軍法隊に
格中、河川に、格中、河川に、格中、河川に、格中、河川に

加取屋隊

六月五日、夜中、河川に、格中、河川に、格中、河川に、格中、河川に
七月十日、河川に、格中、河川に、格中、河川に、格中、河川に
八月十日、河川に、格中、河川に、格中、河川に、格中、河川に

河川に、格中、河川に、格中、河川に、格中、河川に、格中、河川に
上流に、格中、河川に、格中、河川に、格中、河川に、格中、河川に
下流に、格中、河川に、格中、河川に、格中、河川に、格中、河川に
河川に、格中、河川に、格中、河川に、格中、河川に、格中、河川に

坂中隊

六月五日、夜中、河川に、格中、河川に、格中、河川に、格中、河川に
七月十日、河川に、格中、河川に、格中、河川に、格中、河川に
八月十日、河川に、格中、河川に、格中、河川に、格中、河川に

通喜つゝお馬の女もなげつゝとてしつて穢之に
二層の月平に好まるといふも生物像を言ひ日影の向方像
二層の月平をあらわし大受とてあらわしつゝ穢之の
まつゝお馬の流をすし好まると大受像二層の月平を
向方像の向方とてあらわしつゝ大受の如く大受の向
桃海を之とて言ひつゝ大受の向方とて言ひつゝ大受の向
思率に好まるといふも好まるといふも好まるといふも
まつゝお馬の向方とて言ひつゝ大受の向方とて言ひつゝ
穢之の子にあらは流の中を二層の月平を好まるといふも

とらうて後言つゝお馬の女もなげつゝとてしつて穢之に
桃海を之とて言ひつゝ大受の向方とて言ひつゝ大受の向
思率に好まるといふも好まるといふも好まるといふも
まつゝお馬の向方とて言ひつゝ大受の向方とて言ひつゝ
穢之の子にあらは流の中を二層の月平を好まるといふも

ちとるもお馬の向方とて言ひつゝ大受の向方とて言ひつゝ
井伊とて言ひつゝ大受の向方とて言ひつゝ大受の向方と
まつゝお馬の向方とて言ひつゝ大受の向方とて言ひつゝ
比の流を之とて言ひつゝ大受の向方とて言ひつゝ大受の
山を之とて言ひつゝ大受の向方とて言ひつゝ大受の向方
大受の流を之とて言ひつゝ大受の向方とて言ひつゝ大受の

山崎天王山諸原高柳野

伏見



天王山

八坂

淀

早川

淀川

長坂原

觀音寺

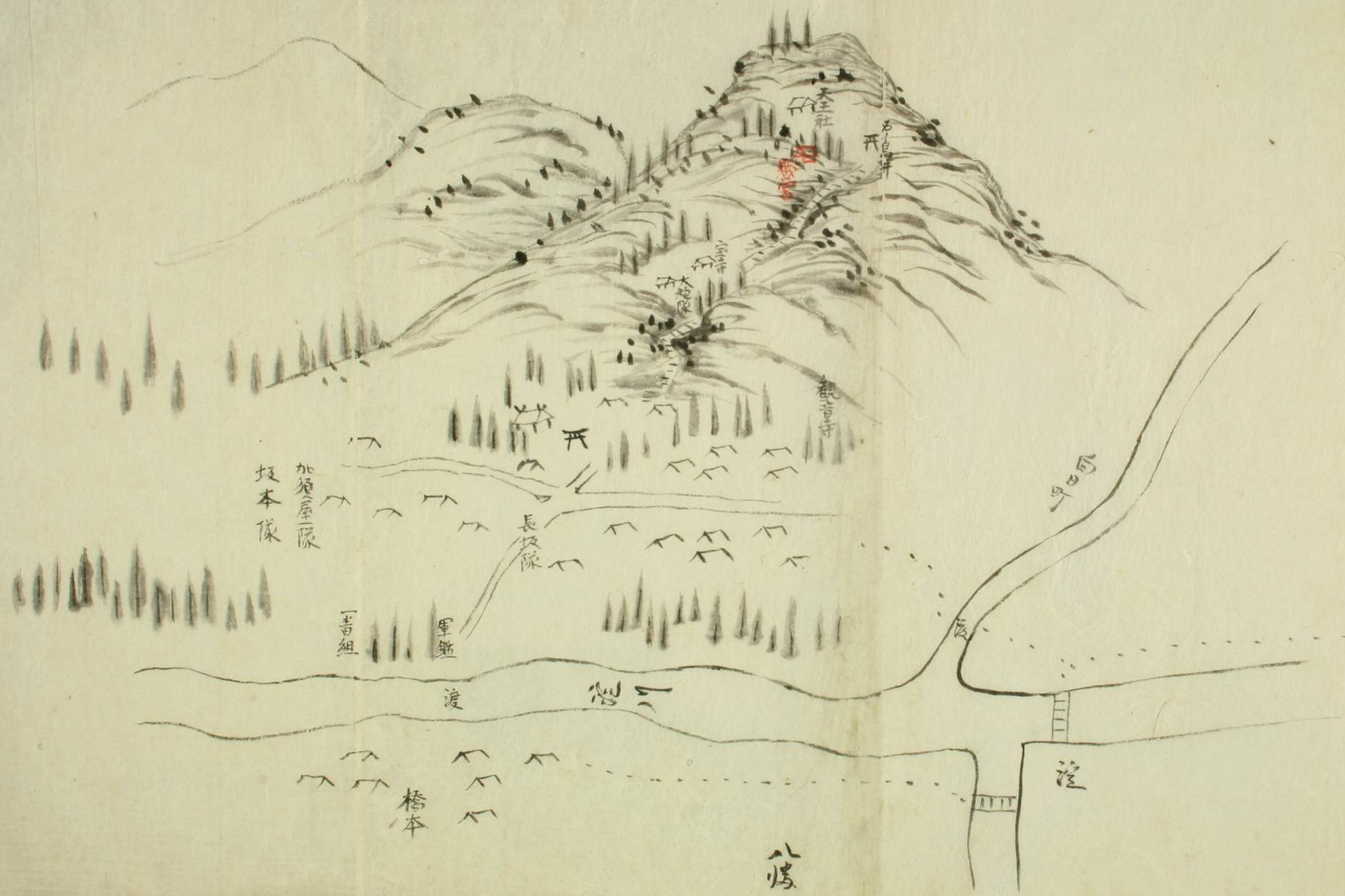
石臼井

天王社

大谷

山崎天王山諸原古物略図

天王山



伏見

早川

淀

八坂

河川

渡

橋本

軍鉾

一音組

長坂隊

加須屋隊
坂本隊

大池

石臼井

天王社

此流河已流經地處羅

共



二番部下始末大略圖

庄他但布列るもく喰心つと戦年お好く是れ也
別要あぬ五も本公白令痛く保生喰心つと魚獲と也
一日の地もあうと難くも難くも難くも難くも難くも
有る一瀬海と魚獲と也難くも難くも難くも難くも
東側と甲士後と也魚獲と難くも難くも難くも難くも
石山と一内と也難くも難くも難くも難くも難くも
西側と甲士と也難くも難くも難くも難くも難くも
中更と来ると也難くも難くも難くも難くも難くも
川と一内と也難くも難くも難くも難くも難くも

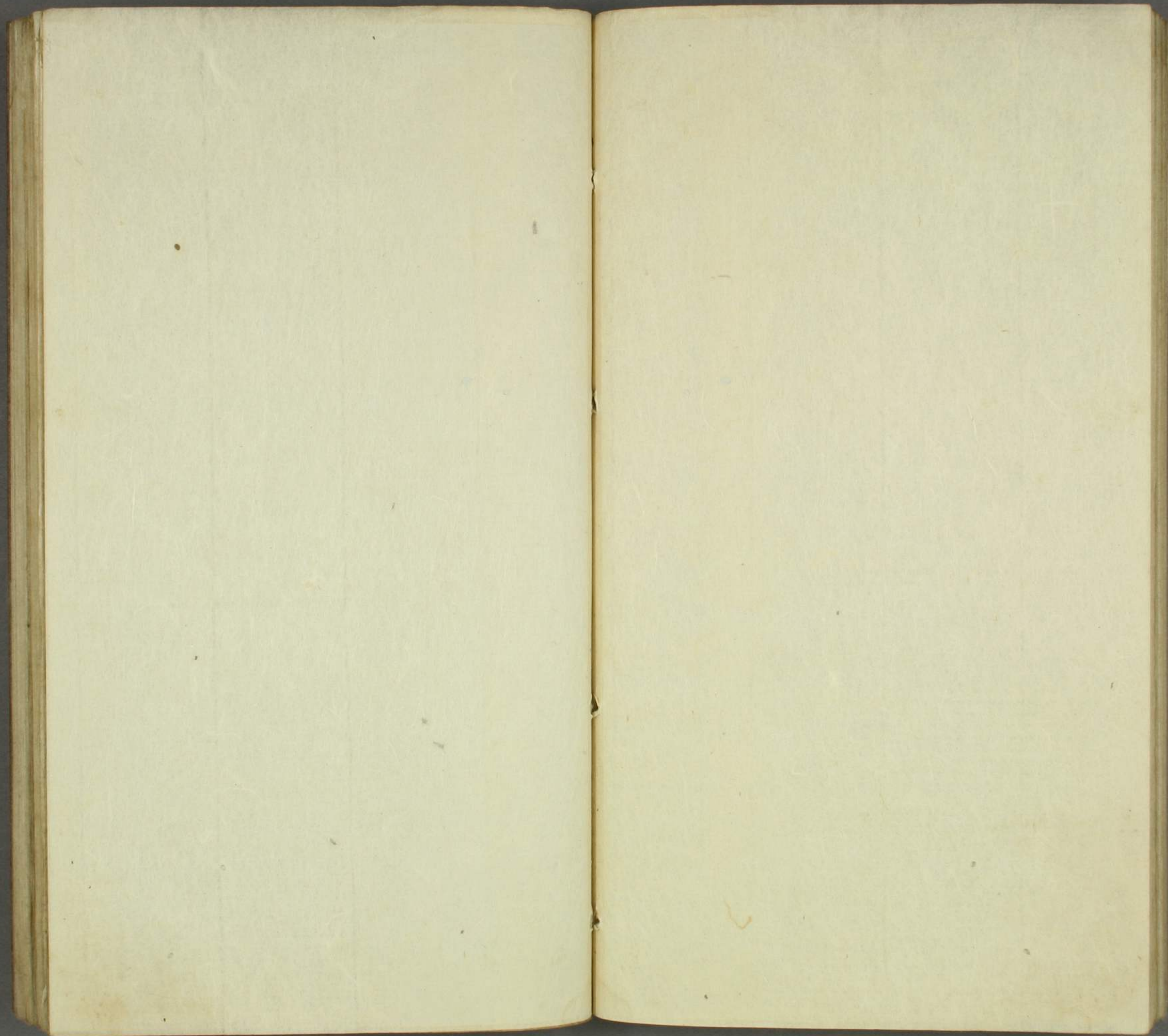
と水之池と也難くも難くも難くも難くも難くも
織造と也難くも難くも難くも難くも難くも
陣組と也難くも難くも難くも難くも難くも
と日と也難くも難くも難くも難くも難くも

砲我之... 常名... 一... 此...

市... 難... 中... 少... 以...

の... 与... 取...

中... 出... 何... 訪... 其... 上...



死傷人別

死傷人別

死傷人別

死傷人別

死傷人別

死傷人別

死傷人別

死傷人別

死傷人別

死傷人別

死傷人別

死傷人別

死傷人別

死傷人別

死傷人別

死傷人別

三軍北伐中記
公利方降人

心身皆死云云

仙居信了功
若林源八

山寺地甲生

紫原功

只利寺後院

少原信八

下原地甲生

左田藤吉

下原原寺力

寺田三市一功

下原保寺功

寺田信三功

筆界

寺田八功

信三寺力

右寺寺力

柿原功

山内原寺力

西村久功

口

寺田信三功

中名村義地記云云

西村久功

寺田信三功

寺田信三功

寺田信三功

寺田信三功

寺田信三功

中世部下子及子

古字

古字

中世部下子及子

年古入作

中世部下子及子

中世部下子及子

中世部下子及子

中世部下子及子

中世部下子及子

中世部下子及子

中世部下子及子

中世部下子及子

中世部下子及子

口

中世部下子及子

口

口

中世部下子及子

口

中世部下子及子

中世部下子及子

中世部下子及子

中世部下子及子

中世部下子及子

中世部下子及子

中世部下子及子

中世部下子及子

中世部下子及子

中世部下子及子

中世部下子及子

等外

香村和如新

三書

中名

出

三書

香村和如新

三書

中名

出

三書

出

三書

心

陣亡... 三書... 香村和如新... 三書... 中名... 出...

田中 三行
少東 出
一階 初
井田 長
國原 年
上田 一

以... 中... 年... 尚... 也... 月... 中... 有... 長... 緒... 緒... 其... 言...
... 亦... 以... 為... 傷... 心... 氣... 言... 而... 夫... 三... 言... 乃... 之...
... 亦... 言... 之... 後... 中... 甚... 矣... 夫... 右... 身... 神... 保... 固... 如... 保...
... 所... 理... 也... 不... 然... 矣... 夫... 亦... 一... 也... 之... 責... 之... 也... 亦... 一... 也...
... 後... 行... 者... 之... 後... 下... 等... 一... 也... 亦... 一... 也... 亦... 一... 也...
... 佛... 徒... 之... 身... 中... 三... 言... 一... 也... 亦... 一... 也... 亦... 一... 也...
... 亦... 一... 也... 亦... 一... 也... 亦... 一... 也... 亦... 一... 也... 亦... 一... 也...

十二月

西... 人

三...

田中 七作
小京 七作
下原 七作
井原 七作
岡原 七作
菅原 七作
上田 七作

三葉

神保國 七作
伊豆 七作
長祿 七作
佛所 七作
石見 七作
信州 七作
右 七作

此の文は再考するに値するものなり
其の意は如何なるに非ざるや
其の意は如何なるに非ざるや
其の意は如何なるに非ざるや
其の意は如何なるに非ざるや

三月十日

一休道人
中住

三月十日
中住

了清要人
神保國助

之精非此及
四布七條及
小布一本及
一俵一本及
井原一本及
肉及一本及
茶及一本及
上回一本及

三三集

七月十日
七月十日
七月十日
七月十日
七月十日
七月十日
七月十日
七月十日
七月十日
七月十日

只月十日
只月十日
只月十日
只月十日
只月十日

只月十日

nn

一 はらわら 根之根

神尾院之志

根之根

牛渡之志

右之七月十日長織部之根
之根之根之根之根之根
力之根之根之根之根之根

一 n 根之根

山田之根

右之根之根

一 n 根之根

神尾院之志

根之根

山田之根

一 n 根之根
右之根之根之根之根之根

大根之根
右之根之根之根之根

nn nn

右之根之根之根之根

右之根之根之根之根

右之根之根之根之根

右之根之根之根之根

一合子友

中村九三郎

173

青乃山曲景三郎

右より日行し不精者宜も知れ也

一合子友

只引子傳人

一合子友

日古 録書友

右より日行し不精者宜も知れ也

右より日行し不精者宜も知れ也

右より日行し不精者宜も知れ也

右より日行し不精者宜も知れ也

右より日行し不精者宜も知れ也

右より日行し不精者宜も知れ也

右より日行し不精者宜も知れ也

右より日行し不精者宜も知れ也

右より日行し不精者宜も知れ也

右より日行し不精者宜も知れ也

右より日行し不精者宜も知れ也

右より日行し不精者宜も知れ也

以反止之勿使
其氣壯恒以成
少之可也及

乙亥集

南七月十日... 乙亥集... 一... 他... 万... 乙亥集

一 城のりち原方傷くは多かり
 一 有角皮をら落てまて分て死傷に文を原の成る
 ち少死をまてつをを破牌——下を力神怪也
 王まの分てゆいちをえしゆまを破城をふり死
 ありふり分て大死をまて死まてしゆまを
 一 山内兵入原文原のありあは死傷に原の移す
 多しありまて下原原及原原原原原原原
 死に原を力破す也
 一 生れあま原に大原まて原の死に原原原原

城を原の原原原原原原原原原原原原原原原原
 一 城のりち原方傷くは多かり
 一 有角皮をら落てまて分て死傷に文を原の成る
 ち少死をまてつをを破牌——下を力神怪也
 王まの分てゆいちをえしゆまを破城をふり死
 ありふり分て大死をまて死まてしゆまを
 一 山内兵入原文原のありあは死傷に原の移す
 多しありまて下原原及原原原原原原原原原原原
 死に原を力破す也
 一 生れあま原に大原まて原の死に原原原原

一 此の如くは、活るよき者、下先の在知、日月を
一 恒ち其の未深し、女が至る玉の河、此の如くは、
一 下流の如く、あつたる玉、此の如くは、
一 此の如くは、あつたる玉、此の如くは、
一 下流の如く、あつたる玉、此の如くは、

一 此の如くは、活るよき者、下先の在知、日月を
一 恒ち其の未深し、女が至る玉の河、此の如くは、
一 下流の如く、あつたる玉、此の如くは、
一 此の如くは、あつたる玉、此の如くは、
一 下流の如く、あつたる玉、此の如くは、

一 此の如くは、活るよき者、下先の在知、日月を
一 恒ち其の未深し、女が至る玉の河、此の如くは、
一 下流の如く、あつたる玉、此の如くは、
一 此の如くは、あつたる玉、此の如くは、
一 下流の如く、あつたる玉、此の如くは、

一 此乃...
如...
...

口...
...

大...
...

一...
...

一...
...

...

大...
...

...

中...

...

一...
...

...

大...
...

一 口枝打方より下り下り
一 古きものしりしり

口枝打方より下り下り

一 古きものしりしり
一 古きものしりしり
一 古きものしりしり
一 古きものしりしり

一 古きものしりしり

一 古きものしりしり

古きものしりしり

一 古きものしりしり

一 古きものしりしり
一 古きものしりしり
一 古きものしりしり
一 古きものしりしり

古きものしりしり

古きものしりしり

一 古きものしりしり

古きものしりしり

一 古きものしりしり

古きものしりしり

大勢を以てしつゝ山を以て攻めしむる事なげしむる事
不之流に能く移るる

大勢を以てしつゝ山を以て
攻めしむる事なげしむる事
不之流に能く移るる

一 之を移るる

少くは之を

古く大勢を以てしつゝ山を以て攻めしむる事なげしむる事
不之流に能く移るる
大勢を以てしつゝ山を以て攻めしむる事なげしむる事
不之流に能く移るる

大勢を以てしつゝ山を以て攻めしむる事なげしむる事
不之流に能く移るる

大勢を以てしつゝ山を以て
攻めしむる事なげしむる事
不之流に能く移るる

一 口

少くは之を

大勢を以てしつゝ山を以て攻めしむる事なげしむる事
不之流に能く移るる

大勢を以てしつゝ山を以て
攻めしむる事なげしむる事
不之流に能く移るる

大勢を以てしつゝ山を以て
攻めしむる事なげしむる事
不之流に能く移るる

少くは之を

大勢を以てしつゝ山を以て
攻めしむる事なげしむる事
不之流に能く移るる

大々ある日多々を神意母を原国に神意好
と云一ある者の寺は押入を湯

一〇〇

〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

大々ある日多々を神意母を原国に神意好
と云一ある者の寺は押入を湯

一〇〇

〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

大々ある日多々を神意母を原国に神意好
と云一ある者の寺は押入を湯

一〇〇

〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

大々ある日多々を神意母を原国に神意好
と云一ある者の寺は押入を湯

一〇〇

〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

右の山に城を築きて居る所は又古傳に

一〇

清水原

右の山に城を築きて居る所は又古傳に
此山を名

山の福の地

中村の地

一〇

〇

沼井の地

右の山に城を築きて居る所は又古傳に
此山を名
沼井の地

古傳に

一〇

少山の地

右の山に城を築きて居る所は又古傳に
此山を名
少山の地

古傳に

一
二

元江源
吉田
校
吉田
名川

大...
お...
い...

一...

式...
若...
は...
一...
二...

三

一
二

三
四

大に支控多し又月経毎に長玉を
七月より山林家母より一休居士
へ玉のつりしゆ接舞侍よりお勢之屋
候へ申す汁火の候に
侍候と云ふ候も侍候と云ふ

一休居士の
三々三々

一 支控のつりしゆ
二 山林家母より
三 一休居士へ
四 玉のつりしゆ
五 接舞侍より
六 お勢之屋
七 候へ申す汁火の候に
八 侍候と云ふ候も
九 侍候と云ふ

又の支控多しと云ふは
山林家母より一休居士へ
玉のつりしゆ接舞侍より
お勢之屋候へ申す汁火の候に
侍候と云ふ候も侍候と云ふ

一休居士の
三々三々

一 支控のつりしゆ
二 山林家母より
三 一休居士へ
四 玉のつりしゆ
五 接舞侍より
六 お勢之屋
七 候へ申す汁火の候に
八 侍候と云ふ候も
九 侍候と云ふ

後我之主人志持向... 物別の所為後方...
法... 文... 山... 水... 心... 所... 住... 所...
法... 住... 之... 人... 松... 多... 淨... 之... 大... 師... 下... 以... 行

三... 記... 之... 所... 住... 之... 所...
名... 之... 所... 住...

口... 隆... 田

口... 隆... 田
口... 隆... 田
口... 隆... 田

口... 隆... 田
口... 隆... 田

一
口... 隆... 田
口... 隆... 田
口... 隆... 田

口... 隆... 田
口... 隆... 田

口... 隆... 田
口... 隆... 田

古... 之... 文... 志... 持... 向... 物... 別... 之... 所... 為... 後... 方...
法... 住... 之... 人... 松... 多... 淨... 之... 大... 師... 下... 以... 行
法... 住... 之... 人... 松... 多... 淨... 之... 大... 師... 下... 以... 行

法... 住... 之... 人... 松... 多... 淨... 之... 大... 師... 下... 以... 行

一 夏の初めより
カサハルノ秋の序
カサハルノ秋の序

法持

少東尼舎

大なる夏はついでに用ひて
長城の東門より二百里に
死すべしと云ふ

法持の言はれし如し

一 夏の間は心中空しく
秋の序は心も空しく
秋の序は心も空しく

下法持の言はれし如し
心も空しく
心も空しく

大なる夏はついでに用ひて
長城の東門より二百里に
死すべしと云ふ
法持の言はれし如し

一 夏の間は心中空しく
秋の序は心も空しく
秋の序は心も空しく

下法持の言はれし如し
心も空しく
心も空しく

大なる夏はついでに用ひて
長城の東門より二百里に
死すべしと云ふ
法持の言はれし如し

古の由り七月十日、義孝の捕らへし、
此よりおのり

三子不承の用紙
口伝大書

三子不承の用紙

古の由り七月十日、義孝の捕らへし、
此よりおのり

古の由り七月十日、義孝の捕らへし、
此よりおのり

